

一般社団法人 日本応用地質学会

令和4年度・2022 年度

第6回国際委員会・IAEG JAPAN 運営委員会 議事録

日 時 : 2023 年 3 月 9 日(木) 15:00~17:30

場 所 : 日本応用地質学会 事務局、Zoom を用いた Web 会議(併用)

出席者 : 長谷川委員長、菊地副委員長、野々村委員、百嶋委員、百瀬委員、安田委員、山下委員、山田幹事  
委任状提出: 加地委員、越谷委員、昆委員、徳楠委員、水野委員

陪席: 茶石顧問

議事:

## 1. 前回議事録(案)の確認

- ・前回(2023 年 1 月)に開催した委員会の議事録(案)を了承した。

## 2. 理事会報告

- ・令和4年度第 10 回、第 11 回理事会の内容について報告がなされた。
- ・理事会の中で、「IAEG のコミッションの活動に関する情報を収集・共有することで、日本人技術者が海外で活躍する場を紹介・提供してほしい」、との依頼があった。情報収集を行うとともに、日本人技術者の関わった実績についても合わせて確認を行う(C37 など)。

## 3. IAEG JAPAN 運営委員会活動について

## (1) IAEG 事務連絡

## 1) IAEG Council Meeting 2022 関連

- ・JSEG 学会誌掲載用の参加報告(2 月号掲載済み)について説明がなされた。

## 2) IAEG XIV Congress 2023 関連

- ・開催概要の記載事項(アブストラクトの提出期限が 5 月末まで延期、COVID-19 対応など)について、学会 HP・NL 等で改めて周知する。
- ・Council Meeting は今後、コンGRESSや各地域会議と切り離してオンライン開催となる可能性が高い。その場合を想定して、アジア地区副会長へ立候補する際の活動手段などについて、再考しておく必要がある。

**3) IAEG アジア地域会議(アジアシンポジウム ARC)について**

- ・14<sup>th</sup> ARC の開催概要(2<sup>nd</sup> Circular)について説明がなされた。
- ・開催時期は 2024 年 2 月に延期され、開催期間中にはアジア地域ミーティングが開催予定となっている。当日の議題案について、事前に主催国側へ確認を入れてみる。
- ・このタイミングで、16<sup>th</sup> ARC (2027 年) の開催を希望する場合は、意思表示をしておく必要がある。まずは JSEG 内で方針を協議した上で、今年中に両 VP と話をする機会を設け、16<sup>th</sup> 以降の方向性を共有しておく必要がある。(中国やインドの開催意思を確認するか? など)
- ・日本開催時の候補時期としては、2027 年の総会・シンポジウム(東京)や研究発表会(中部)が挙げられる。JSEG 70 周年行事(2028 年)に関連付けて開催する案もある。

**4) IAEG Japan NG の体制について**

- ・IAEG Japan NG 代表については、事前に理事会へ諮った上で今年 6 月の総会で正式に交代とする。
- ・上記交代の件は IAEG 事務局へも報告し、IAEG Connector E-News 等にも記事を掲載する。

5) IAEG アジア地区副会長 Ranjan 氏からの連絡

- ・5月の役員会開催に向けて、アジア地区からの提案事項を募集していることや、YEGからの募集依頼について説明がなされた。

6) IAEG Newsletter 関連(2022 No.4 & 2023 No.1 投稿)

- ・2022 No.4の発行予定と2023 No.1の原稿募集予定について、IAEG担当へ確認を入れる。
- ・2023 No.1の投稿へ向け、引き続き素材の収集準備を進める。

**7) 他 National Group との交流について**

<アジア全体>

- ・2023年～2026年の4年間の任期でIAEGアジア地区副会長(VP)に就任した二人の国内在籍時の大学関係者にも関わってもらいつつ、今後のARC開催方針(特に第16～18回)について、ARC開始時の提唱国である日本主導で協議を進めて行く必要がある。
- ・例えば、JSEGシンポジウム(6月)やIAEGコンgress(9月)の開催時に意見交換を行う場をJSEGでセッティングするなどして、Japan NGとアジア地区VPとの関係性をより深めていくことが望ましい。
- ・研究発表会(10月)では、特別セッションの継続開催の検討と合わせて、アースサロンのようなスピノフ企画も国際交流に有効なイベント開催方法の一つとして追加検討する。イベント参加者は、日・韓・ネパールに加えて、中国・台湾・ASEAN諸国も含めた他国・他NGのエンジニア(JICA従事者)やJSEG関係者などを取り込んで行くことも検討する。

<韓国>

- ・JSEG研究発表会 特別セッションでのKSEG会長による講演成功を受けて、2023年以降もより魅力的な企画(英語セッションの実施など)を通して海外NGとの交流を継続する中で、国際会員の増加にもつなげる。

<CHINESE TAIPEI>

- ・CHINESE TAIPEI Regional Group 代表から回答があり、YEGsのメンバー2名を窓口として交流を進めたいとのこと。まずはメール等で情報交換を行う。

(2) その他

**1) 若手技術者を対象とした海外技術関連情報・知見の発信について(研究発表会\_特別セッション開催)**

- ・2023年の開催テーマ等の素案について説明がなされた。すでにセッション応募締め切り間近のため、素案をベースとしたセッション応募用紙を作成し、事業企画委員会へ事前確認を行った上で事務局へ提出する。

2) 学会誌 Bulletin 紹介

- ・編集委員会からの指摘事項(取り急ぎ過去3回分程度)について、委員会内で共有を図る。

3) ダイバーシティ推進特別委員会

- ・令和4年度第7回委員会の議事録について説明がなされた。

4) JSEG 総会資料

- ・令和4年度の活動総括案について説明がなされた。

5) 大学機関等からの国際委員会への参加について

- ・若手の大学関係者 ⇒国際委員会、YEGにも加わってもらう方向で要請する。

6) 海外シンポジウム

- ・現在、学会 HP に掲載中の情報について説明がなされた。適宜内容を最新情報に更新した上で、JSEG\_HPのトップページ及び学会 NL での周知を手配する。

#### 4. ホームページ関係

##### (1) JSEG 英語版 HP

- ・適宜、掲示情報の更新を行う。
- ・直近での新たな試みとして、国内災害情報の速報的な情報提供(SNS)や写真集コーナー新設(HP)(災害調査団&海外調査団(ネパールと韓国はある?))などの対応準備を進める。
- ・災害地質研究部会の部会長に対して、災害調査団報告の英語版ひな型(写真+コメント)を送付し、今後の掲載に向けてご協力頂けるとの回答をもらった。

##### (2) JSEG 日本語版 HP

- ・適宜、掲示情報の更新を行う。

#### 5. 海外情報の共有

- ・「海外アラカルト」講演(海外事業の紹介、留学生や海外技術者から見た国内事情など)について、今後も継続するために、まずは各委員から3月末までに候補者を選定する。
- ・「海外アラカルト」講演は、「oVice」の試行も含めたダイバーシティ系との共催も検討する。

#### 6. その他

- ・次回委員会(令和5年度\_第1回)は、令和5年5月下旬に開催する方向で調整する。

以 上